

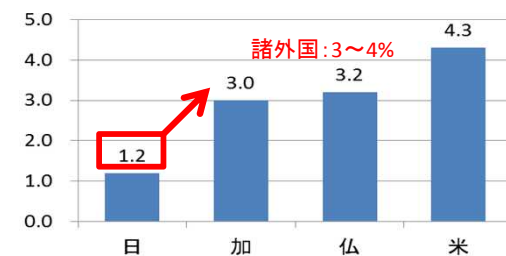
文化芸術資源を活用した経済活性化 (文化GDPの拡大)

平成 28 年 4 月
文 化 庁

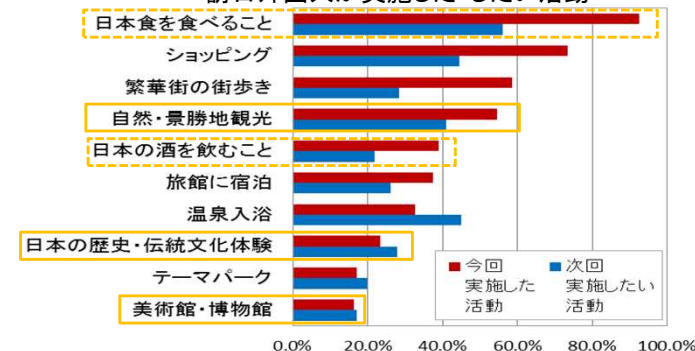
文化芸術資源を活用した経済活性化(文化GDPの拡大)

- ✓文化芸術は、観光地の魅力や、デザインを始め産業の付加価値などを産み出す源である。このため文化芸術への投資は、文化分野だけではなく他の様々な産業分野への経済波及効果を生み出す。
- ✓国内総生産(GDP)において、農林水産業1.2%、電気・ガス・水道業1.8%、金融・保険業4.5%を占めるのに対し、**文化GDPは1.2%(約5兆円)**(平成23年度)だが、諸外国では約3~4%程度を占める(米4.3%(2012)、仏3.2%(2011)、加3.0%(2010)、豪4.0%(2008-9))。
- ✓我が国でも、**2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた「文化プログラム」の実施に集中的に取り組むことを契機として、地域活性化や文化外交、誰にでも活躍のチャンスがある社会の創出につながるような文化芸術について、民需主体の文化芸術振興モデルを創出、普及展開することにより、文化GDPを総GDPの3%にまで拡大することを目指す。**これを他の産業や地域経済の活性化、外国人観光客増につなげるにより、GDP600兆円の達成に寄与する。

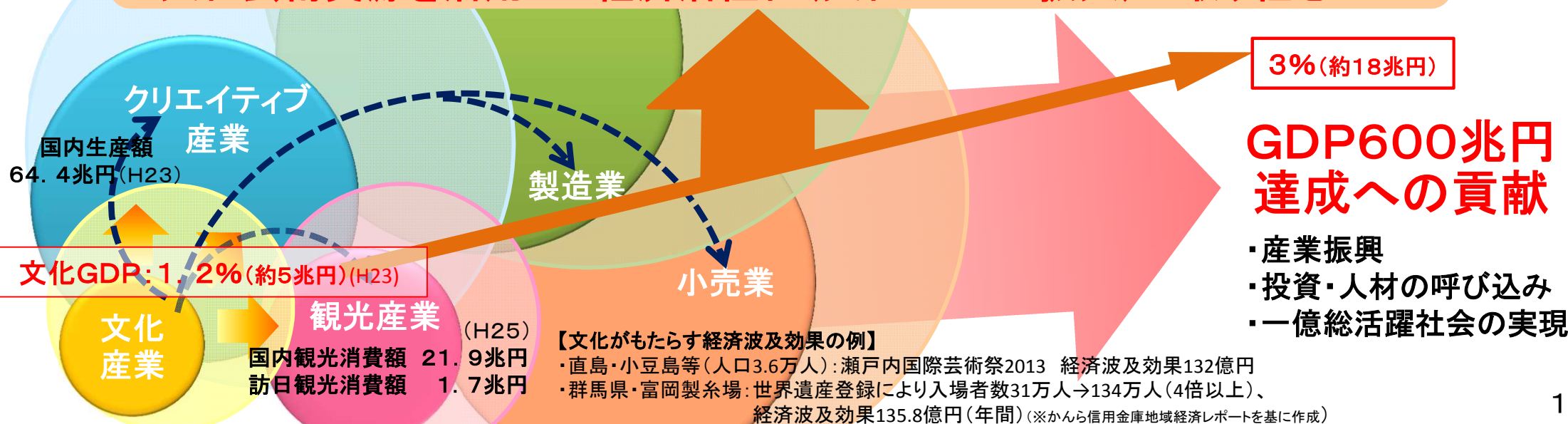
(%) 各国の文化GDP(対GDP比)



訪日外国人が実施した・したい活動



**文化を広い概念で捉え、観光や他産業への波及を重視
文化芸術資源を活用した経済活性化(文化GDPの拡大)に取り組む**



文化GDPの拡大に向けた取組の方向性について

方向性1. インバウンドの増加・地域の活力の創出

2020年東京大会に向けた文化プログラム等の実施を起爆剤として、地域の文化芸術活動の魅力を最大化し、地域経済への波及を創出する。

【具体的な取組・方向性】

- ・ 地域における芸術祭などの文化芸術活動や食文化を含めたくらしの文化などの文化資源を掘り起こし、地域活性化につながる文化プロジェクト(仮称)の全国展開・推奨(4年間で20万件のイベント、5万人のアーティスト、5000万人の参加者)
- ・ 我が国の産業振興や外交の進展に資する文化芸術の創造への支援と海外への発信に向けた体制整備と、最高峰アワード(仮称)の創設や関係省庁と連携した「日本博」の実施

等

文化GDPの拡大・他産業への波及

方向性2. 文化産業における潜在的顧客・稼ぎ手の開拓

多様性を包容する文化の力を活用し、障害者、外国人等、あらゆる人々が活躍する場を創出し、文化活動の裾野を拡大する。

【具体的な取組・方向性】

- ・ 児童生徒、親子、障害者、高齢者等を対象に、コミュニケーションワークショップ等の社会包摂プログラムを全国展開
- ・ 障害のあるアーティストの優れた文化芸術活動を支援
- ・ あらゆる子供に対する文化芸術機会を提供
- ・ 外国人への日本語教育の実施

等

方向性3. 「文化財で稼ぐ」力の土台の形成

地域の文化財の戦略的活用や適切なサイクルの修理・美装化により、「文化財で稼ぐ」仕組みへの転換を図る。

【具体的な取組・方向性】

- ・ 文化財解説の多言語化等を通じ、我が国の文化・歴史を体現する文化財の価値・魅力をわかりやすく効果的に発信
- ・ 文化財の適切なサイクルによる修理、建造物等の美装化、文化施設の機能強化等により、雇用創出とともに観光客を魅了する環境を充実
- ・ 日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点程度整備するなど、地域の文化資源の戦略的活用を推進

等

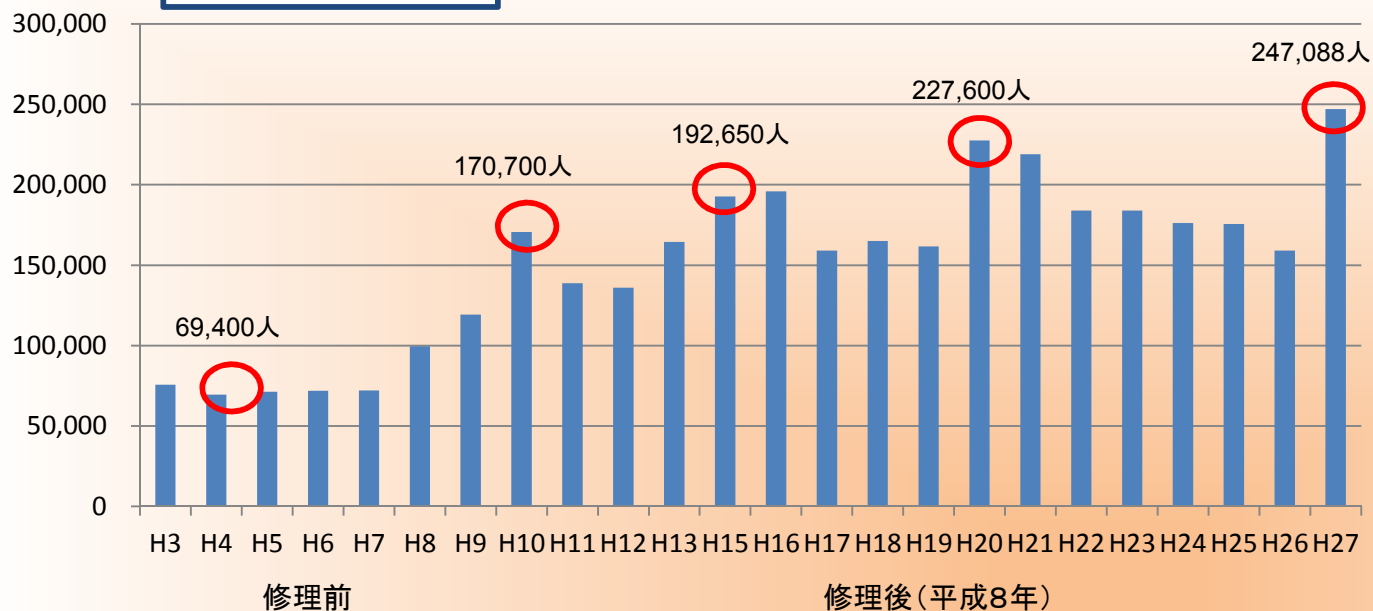
文化資源を活用した経済活性化(文化GDPの拡大)

～参考事例集～

参考事例① ～保存修理事業等による観光効果～

● 瑞龍寺（富山県高岡市）では、平成8年度に保存修理事業が完了し、平成9年に仏堂、法堂、山門が国宝に指定。
ライトアップ事業等も展開し、北陸新幹線が開通したH27年には過去最高の約25万人を記録。

拝観者数の推移



- 【H8】保存修理工事完了
- 【H9】**仏殿、法堂、山門の国宝指定**
- 【H14】NHK大河ドラマ「利家とまつ」の放映
- 【H19】ライトアップ開始
- 【H20】東海北陸自動車道全線開通
- 【H21】高岡開町400周年
- 【H27】北陸新幹線開通



ライトアップ

[保存修理事業概要]

総事業費：1,987百万円
 国庫補助額：1,334百万円
 事業期間：S60年10月～H8年12月

参考事例② ～大遷宮に合わせた計画的な修理による経済波及効果～

- 出雲大社では、平成25年の「平成の大遷宮」にあわせ、本殿（国宝）をはじめ各種施設について**平成20年度から計画的に保存修理事業を実施**。観光客増加（H24：2919万人→H25：3674万人）による**島根県内への経済波及効果は344億円**に達したと試算されている。



▲ 本殿 素屋根の解体

【本殿の修理内容】
屋根葺替・部分修理

指定：昭和27年
建立：延享元年（1744）
修理期間：平成20年12月～25年2月

年度	事業費	国庫補助額
H20年度	4.7億円	3.1億円
H21年度	5.0億円	3.3億円
H22年度	5.0億円	3.3億円
H23年度	5.0億円	3.3億円
H24年度	5.8億円	3.8億円
H25年度	2.6億円	1.7億円
H26年度	2.6億円	1.7億円
計（～H29年度）	38.0億円	24.7億円

65%
国庫
補助



▲ 本殿 竣工

- ✓ 県内への経済波及効果：344億円
- ✓ 県民の雇用者所得増加：113億円
- ✓ 新規雇用創出効果：約3500人

参考事例③ ～御柱祭の効果の持続・発展のための保存修理～

- 諏訪大社では、平成22年の御柱祭による^{おんばしらい}観光消費額約171億円・経済波及効果約216億円といった効果を持続し、さらに発展したものとするため、平成24年度から主要施設の保存修理に取り組んでいる。



▲ 諏訪大社御柱祭

平成22年諏訪大社御柱祭の効果

- ✓ 観光消費額：171億1600万円（H16：160億円）
- ✓ 経済波及効果：215億円6000万円
- ✓ 総動員数：169万3000人（H16：約160万人）

（「平成22年10月29日長野日報（諏訪広域連合調査結果引用）」による）

この効果を持続し、発展させるため、平成24年度から国庫補助で本宮幣殿・拝殿等の修理を実施。

諏訪大社上社

本宮幣殿、本宮拝殿、本宮左右片拝殿（二棟）、本宮脇片拝殿、本宮四脚門

所在地：長野県諏訪市大字中洲

建築年代：幣殿・左右片拝殿・脇片拝殿：

天保6年（1835）〔文書、槌〕

四脚門：慶長13年（1608）

拝殿：安政4年（1857）

指定：昭和58年12月26日

保存修理：平成24年12月～平成27年5月

年度	事業費	国庫補助額
H24～26年度	1.9億円	1.0億円
計（～H27年度）	2.1億円	1.1億円

55%
国庫
補助



▲ 幣殿解体状況

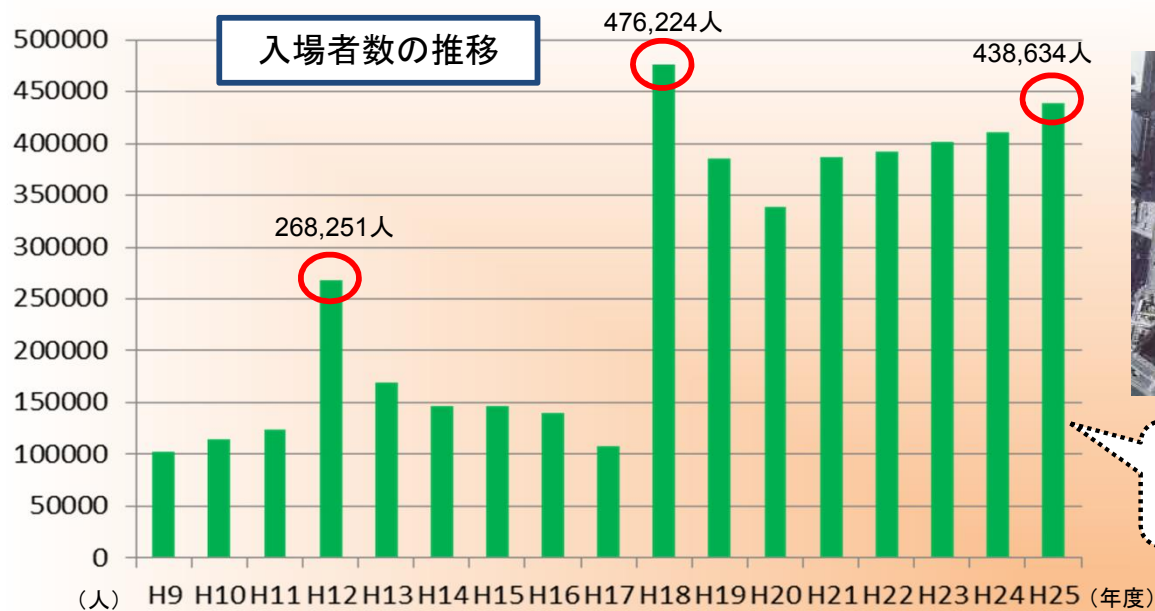


▲ 拝殿解体状況

参考事例④ ～史跡の復元整備による観光効果～

でじまおらんだしょうかんあと

- 出島和蘭商館跡（長崎県長崎市）では、**平成8年度からの復元整備事業により、入場者数が段階的に増加。ピークの平成18年度以降は一旦落ち込んだものの、市の意欲的な取組により再び増加を見せている。**



整備前(平成8年)



整備後(平成26年)



公有化・
整備の
実施

- 【H22】 NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映
- 【H24】 震災以降の修学旅行生の増加／クルーズ船の入港増加
- 【H25】 タブレット端末でCG再現／クレジット・電子マネーでの入場導入

【H12. 3】 第Ⅰ期工事が完成
江戸期の蔵を中心に復元。蔵の内部は発掘調査の成果が見れるような展示（ガラス張りの床など）、ガイダンス的要素を盛り込んでいる。



二番蔵(内部)

【H18. 3】 第Ⅱ期工事が完成
江戸期のカピタン（西洋の商館長）が住んでいた商館を中心に復元。建物の復元のみならず当時の生活様式も含めて可能な限り再現した。



カピタン部屋(内部)

【江戸時代後期の石倉を復元
→資料館に】



復元後の姿



【学校教育への活用】



【商館長の屋敷を復元
↓地域活動の拠点に】

(写真提供:長崎市)

参考事例⑤ ～まちなみの活用による観光客の増加～

- 福島県下郷町は、大内宿の重要伝統的建造物群保存地区への選定（昭和56年）も契機として、昔からのまちなみの再生や展示施設の整備、駐車場の整備などを進め、従来の農業中心の産業から、観光産業への転換を実現。その結果、平成21年には観光客数が116万人と、昭和63年（11万人）の約10倍に。

建物の修理再生により、昔ながらの町並みの魅力向上



保存修理事業
総額368,644千円
(国庫:215,609千円)

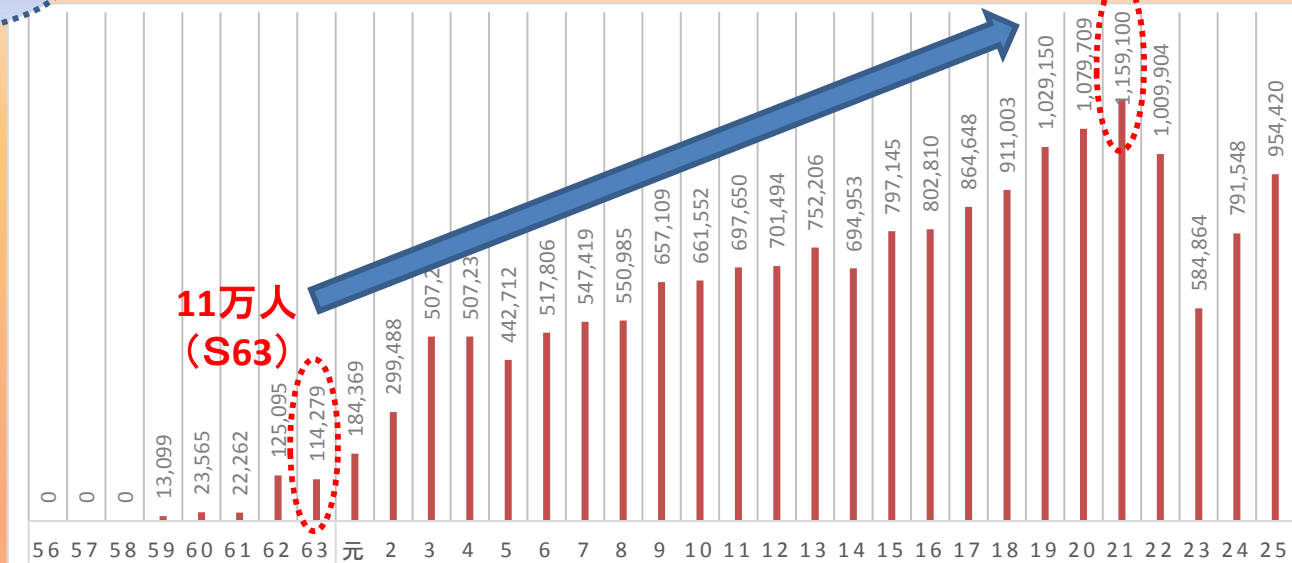


防災施設等事業
総額374,458千円
(国庫:242,161千円)

貯水槽や放水銃・ポンプの設置により、木造建築の多い宿場町を安心して観光

しもごうまちおおうちじゆく

【下郷町大内宿の観光客数の推移】 116万人(H21)



観光拠点の設置、案内による理解促進



展示施設整備(本陣復原)



無電柱化(電柱移設)

景観に配慮したまちづくり

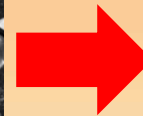


駐車場整備

アクセスの改善による観光促進、歩行者の安全確保



選定前の大内宿



現在の大内宿

参考事例⑥ 文化を中核とした経済活性化（１）

瀬戸内国際芸術祭2013（香川県）

- ✓ 美しい瀬戸内海を船で巡りながら、島の自然や文化に溶け込んだアートを体感する現代アートの祭典。
- ✓ 3年ごとに国際芸術祭として開催（次回開催は平成28年）
- ✓ 平成25年に開催された第2回となる国際芸術祭には、**26の国と地域から200組のアーティスト**が参加。
- ✓ 直島町では、首都圏から若い世代が移住し、**年2%強の人口減少率が1%程度にまで改善**しており、下げ止まり傾向が見られる。
- ✓ 開催期間は、春期3月20日～4月21日、夏期7月20日～9月1日、秋期10月5日～11月4日（計108日間）。
- ✓ **来場者数は約107万人、約132億円の経済効果**（事業費約10.2億円）



瀬戸内国際芸術祭
（撮影：中村 脩）

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012（新潟県十日町市）

- ✓ 里山を舞台とする地域内外のアーティストによる作品制作・展示や地域住民との交流、アートをテーマにした様々なイベントを行う芸術祭。
- ✓ 平成24年に開催された第5回トリエンナーレには、**44の国と地域から310組のアーティスト**が参加。
- ✓ 空き家や廃校にもアート作品を展示し、平成24年には約500軒ある空き家のうち 44軒を、また、20校ある廃校のうち11校を展示会場として活用。
- ✓ 開催期間は、7月29日～9月17日（51日間）
- ✓ **来場者数は約49万人に上り、約46億5千万円の経済効果**（事業費約8.6億円）



大地の芸術祭での作品展示

札幌国際芸術祭2014（北海道札幌市）

- ✓ 「都市と自然」をメインテーマとする札幌と北海道の自然と資源を活かした国際的なアートの祭典。3年ごとに国際芸術祭として開催（次回開催は平成29年予定）
- ✓ 平成26年に開催された初年度では、**坂本龍一氏をゲストディレクターに迎え、64組のアーティスト**が参加。
- ✓ 展示作品「センシング・ストリームズー不可視、不可聴」は文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞を受賞。
- ✓ 開催期間は、7月19日～9月28日（72日間）
- ✓ **来場者数は約48万人、約59億円の経済効果**（事業費約6.8億円）



札幌国際芸術祭2014オープニングプログラム
旋回するノイズ

提供：創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 10

参考事例⑦ 文化を中核とした経済活性化（2）

兵庫県立芸術文化センター（兵庫県西宮市）

- ✓ 阪神淡路大震災からの復興のシンボル。西宮北口駅再開発の中核施設として開館。
- ✓ 世界的な指揮者である佐渡裕芸術監督のもと多彩な公演を実施。
- ✓ 公演入場者数は年間約50万人。周辺の商業施設と一体となり地域に賑わいをもたらす。
- ✓ 開館以降、西宮北口駅の乗降客数が増加し、駅周辺人口は震災前水準へ回復。
- ✓ 関西の「住みたい街ランキング」では西宮北口駅が1位。
- ✓ 経済効果：145.4億円 雇用効果（兵庫県内）：507人（平成21年度）



金沢国際アニメーション芸術文化創造事業（金沢市）

- 湯涌ぼんぼり祭り（7月21日、10月11日）
 - ✓ 地元温泉街（湯涌温泉）を舞台としたアニメ「花咲くいろは」で登場した架空の祭りを再現。
 - ✓ 原作アニメ関係者を招待し、湯涌稲荷神社のぼんぼり点灯式や交流イベントの開催。
 - ✓ 来場者数約1万3千人（前年比1.2倍）、約2億1千万円の経済効果があった。
- かなざわアニメフェスタ2014（11月8日～9日）
 - ✓ 金沢ゆかりのアニメ関係者を招いたトークショーや、展示、ワークショップを開催。
 - ✓ 来場者数は延べ約4,600人



湯涌ぼんぼり祭り

広島メディア芸術推進事業（広島国際アニメーションフェスティバル及びメディア芸術プロジェクト）（広島市）

- 広島国際アニメーションフェスティバル（8月21日～25日）
 - ✓ 世界四大アニメーション映画祭の一つで、国際アニメーションフィルム協会公認映画祭であり、コンペティション・上映会・ワークショップなどが開かれる総合的な映画祭。
 - ✓ コンペティションでは74ヶ国・地域から2,217本の応募。
 - ✓ 海外からも150人を超える作家・映像関係者がゲスト参加し、市民や学生との交流も図られた。
 - ✓ 来場者数は約23万人（応援イベント含む）、約3億3千万円の経済効果



会場の様子

参考事例⑧ 文化芸術活動を通じた活躍の場の創出事例

可児市文化創造センター（岐阜県可児市）

- ✓ 人口10万人の可児市において年間約30万人が来館。地域のにぎわい創出に貢献。
- ✓ 文化芸術を活用して、子育て支援、高齢者の生きがいをづくり、多文化共生などの地域課題に取り組む「まち元気プロジェクト」を展開。公民館や福祉施設で実施する年間400回以上のワークショップには延べ7千人以上の市民が参加し、コミュニティの形成に寄与。
- ✓ 県立高校において自己表現力とコミュニケーション能力の養成を目的に演劇手法を活用したワークショップを実施。中途退学者が約3分の1となり、新入生の定員割れも解消。
- ✓ 経済効果：11.6億円
- ✓ 雇用効果（岐阜県内）：53人（平成21年度）



可児市文化創造センター



児童・生徒のWS



高齢者のWS



乳幼児と保護者のWS

さいたまゴールドシアター

- ✓ 彩の国さいたま芸術劇場芸術監督蜷川幸雄が率いる、55歳以上の団員による演劇集団。
- ✓ 2005年11月、当劇場芸術監督に内定した蜷川が、就任後第一に取り組むべき事業として「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会う場を提供する」ための集団作りを提案したことに始まる。
- ✓ 誰もが経験する“老い”を“演劇”に昇華させようと、プロの俳優とは異なる独自の創造性を発揮し、また、演劇界の枠を越え、日本の高齢化社会の有り様に問いかけるモデル・ケースとして、さいたまゴールド・シアターは結成当時から注目を集め続けている。
- ✓ 現在団員は64歳から89歳までの39名。平均年齢76.7歳。（2015年11月現在）
- ✓ 団員募集時には1266名が応募し、15日間、延べ78時間に渡るオーディションを実施。
- ✓ 2014年11月から12月にかけてはパリ・香港を含む3ヵ国5都市を巡るツアー公演を実施。全5会場で8,000人以上の観客を動員。



公演の様子